

ウェブサイトはこちら!

福島第一原子力発電所で働く
みなさんへのお知らせ

2019年



月刊 いちえふ。

月

INDEX

■ いちえふのいま

1Fの廃止措置などに向けた
取り組みに関するIAEA調査団
レビュー(第4回)の最終報告書
とりまとめ

■ 1Fを守る仲間たち

- エイブルのみなさん

■ 安全の心得【火気作業編⑨】

■ 福島クイズ

プレゼント

福島名産の
詰め合わせ



とびっくす



ジューシーないちごを食べよう!

いちごがおいしい季節です。福島県では5月ごろ
までいちご狩りができます。たわわに実った
いちごを味わいにいちご狩りに行ってみては?



風邪の予防を心がけよう!

空気が乾燥しやすいので、火災には注意しま
しょう。喉の乾燥にも気をつけて風邪の予防も
心がけてください。



転倒や車のスリップに注意!

この時期に気をつけたいのが路面の凍結。
靴は滑りにくいものを履いて、車の運転も
十分に注意してください。



いちえふのいま

1Fの廃止措置などに向けた取り組みに関する
IAEA調査団レビュー(第4回)の最終報告書とりまとめ

国際原子力機関(IAEA)調査団による第4回レビューミッション(2018年11月5日~13日)の最終報告書が、
2019年1月31日、IAEAおよび政府(経済産業省)から公表されました。このたび公表された報告書では、前回

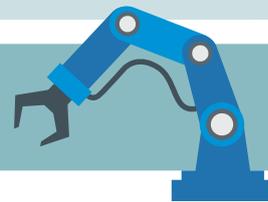


IAEA調査団によるレビューミッション(2018年11月)

(2015年2月~4月)から廃炉・汚染水対策が良好に
進捗していることが評価されているほか、17項目の評価
できる事項と21項目の助言が記載されています。IAEA
からの報告・助言については、国からの指導を踏まえ、
廃炉に向けた取り組みの中に適切に反映してまいります。

最終報告書
(経済産業省ウェブサイト)





新しい工法で 排気筒の解体に挑む

1Fの1・2号機の排気筒は、耐震上の裕度を確保し、リスクを低減させるため、2019年5月から上部半分の解体工事を開始する予定です。排気筒の高さは120m。この難しい工事に取り組んでいるのが、エイブルです。実作業に向けた準備が進む中、エイブルの3人のみなさんにお話をうかがいました。

クレーンで解体装置を吊り上げ ロボットを遠隔操作する新工法



—— エイブルでは、どのようなお仕事をしていますか。

岡井さん：私たちは震災以前から1F内での設備メンテナンス、他の発電所での建設や改修工事などに携わってきました。震災後は、廃炉に向けたさまざまな工事や設備運用などの業務も行っています。現在進行中の大きなプロ

Message

安全を最大限に配慮し、みなさまにご安心いただけるような作業をすすめていきます。今後も廃炉に向けて全力で取り組んでいきます。



(写真左から)

なかね みずき さん おかい いさむ さん さとう てつお さん
中根 瑞貴さん 岡井 勇さん 佐藤 哲男さん

ジェクトとしては、1・2号機の排気筒解体工事があります。排気筒の高さは120mですが、上部の約60m分を解体するという工事です。2017年から工事の実現性検討を始めて、遠隔装置の開発、モックアップなどを進めており、2019年5月ごろから1F現地での解体作業に移行する予定です。

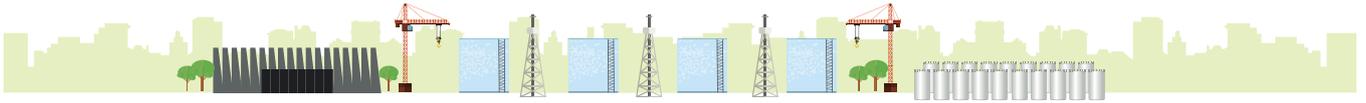
佐藤さん：排気筒周辺は線量が高く、人が入って作業することができません。そこで、クレーンで吊り上げた解体装置を採用しました。解体装置には複数のロボットがついていて、そのロボットを遠隔操作して排気筒や周辺の構造物を頂部から順に切断し、少しずつ地面に下ろしていく。そんな工事になります。

—— どのような工夫で困難を乗り越えたのですか。

佐藤さん：例えば、切断するときに発生する削りくず、いわゆる「切子」の回収です。今回のプロジェクトでは、排気筒の内側から「チップソー」と呼ばれる円盤型のこぎりを入れて切断します。その際に、たくさんの切子が発生します。これを回収するためのボックスを用意したのですが、チップソーを回転させるモーターに切子が挟まって止まってしまいました。そこで、モーターを守るカバーを取り付けたのですが、そうすると熱がこもって止まってしまう。何度も改良を繰り返して、ようやく期待通りのボックスができました。また、チップソーについても、何度もテストして最適なものを選びました。



排気筒を内側から切断する内周切断装置。岡井さんが触れているのが、苦労してつくったボックスだ



岡井さん：ときには予想外のことが起きたり、壁にぶつかったりすることもあります。そこで、大学教授にもご協力を仰いで、できるだけ幅広い知見を集めるよう心掛けました。

「不可能を可能に！」を合言葉に 困難なプロジェクトに挑み続ける

—— エイブルのカルチャーや強みについてお聞きます。

岡井さん：私たちの名刺には「不可能を可能に！」というメッセージが印字されています。この言葉の通り、誰も経験していないこと、みんなが「無理じゃないか」と思うようなことに積極的に取り組んできました。それは、今回のプロジェクトにもいえることです。

—— 福島の復興にかける思いをお話してください。

中根さん：私はいわき市に住んでいて、震災のときは小学生でした。「これからどうなるんだろう」と漠然とした不安を感じていました。当時は、将来自分が廃炉に関わる仕事をやるようになるとは想像もできませんでした



解体装置をクレーンで吊り下げ、ロボットを遠隔で操作して各部位を切断する



ロボットの遠隔操作室として利用する車両には、子供たちが描いた絵がある。子供たちの未来を考えながら、日々の仕事に取り組む

が、学生時代に学んだロボットや機械の分野で廃炉に携わることを通じて地域の復興に役立ちたいと思いました。縁の下の力持ちとして、プロジェクトの安全な進行を支えることができればうれしいですね。

佐藤さん：まずは目の前の仕事に集中して、一つひとつのステップをクリアしていきたいと思っています。大勢の人たちが一歩ずつ前進することが、福島の復興につながるはずです。

岡井さん：震災から8年以上が経過していますが、まだ地元に戻っていない方もいます。そうした人たちが安心して戻ってこられるような環境づくりに、少しでも貢献できればと思います。

つと お勤め先

株式会社エイブル

1992年設立。97年本社を福島県双葉郡大熊町に移転。震災により本社機能を広野町に移している。火力・原子力発電を中心に各種プラント設備の建設、設計・開発を主に行う。

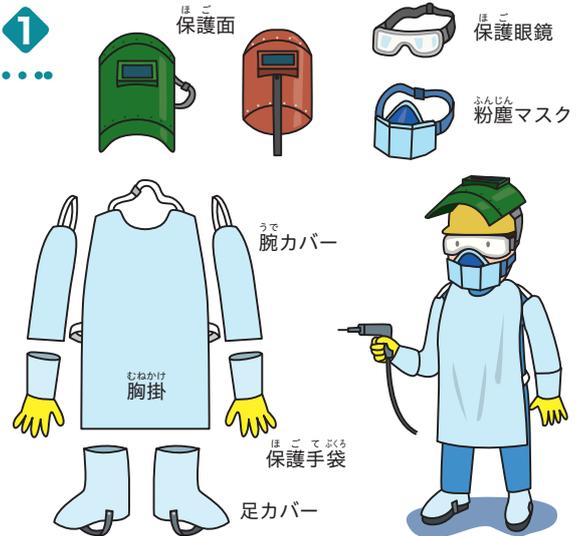
● 続きはウェブサイト「1 FOR ALL JAPAN」でお読みください
URL: <https://1f-all.jp/interview/56/>

安全の心得

火気作業編 9

保護具を着用しよう ①

作業区分	着用保護具
火気作業	1) 保護面、保護眼鏡※1 2) 粉塵マスク※1、※2 3) 保護手袋：薄布手袋+薄ゴム手袋+保護手袋 4) 胸掛 5) 腕カバー 6) すね当て 7) 足カバー
グラインダー作業	1) 防塵メガネ※1 2) 粉塵マスク※1、※2 3) 胸掛



※1 全面マスク代替可 — 難燃性ではないので火の粉付着注意
 ※2 屋内、槽内、筒内などの閉所内作業にあたっては、検定合格品を使用

福島 QUIZ

今月は福島 QUIZ 第3回です。福島県にまつわるクイズを毎月出題します。あなたはどのくらい知っていますか？

Q3. 会津富士とも呼ばれ、日本百名山にも選定された福島県を代表する山は？

- 1 飯豊山
- 2 磐梯山
- 3 会津駒ヶ岳
- 4 安達太良山

▶ 今号のプレゼント

福島名産の詰め合わせです。

※賞品は写真と異なる場合がございます



▶ 応募方法・プレゼントのお受け取り方法

福島 QUIZ に正解した方の中から抽選で5名様にプレゼントをさしあげます。

入退域管理棟、福島第一登録窓口通入口にある応募箱に必要事項をご記入のうえ、ご応募ください。

応募箱設置期間 2月28日～3月20日

- *応募用紙は応募箱横に設置しています。
- *当選者の発表はプレゼントの発送をもってかえさせていただきます。
- *答えはウェブサイト「1 FOR ALL JAPAN」新着情報で発表します。

1FOR ALL JAPAN
 鹿島のいま、あした

ウェブサイトの紹介
<https://1f-all.jp/>

福島第一原子力発電所の廃炉事業を進める作業員のみなさんに、働く仲間や応援者のメッセージを伝えるため2015年10月に開設した「1 FOR ALL JAPAN」です。ウェブサイトでも本誌でも、作業員のみなさんを応援していきます。



月刊いちえふ。
 2019年2月号

【発行日】2019年2月28日
 【発行】
 東京電力ホールディングス株式会社
 福島第一廃炉推進カンパニー
 廃炉コミュニケーションセンター
 コミュニケーション推進グループ
 【お問い合わせ先】
 Mail: info@1f-all.jp